

## 入選

周りが背を向けたとしても……

アラブ首長国連邦 アブダビ日本人学校

3年 藤本逢里

「小さな親切、大きなお世話」。

こんな言葉があるからなのか、私は以前まで人に親切にすることが怖かった。いや、人に親切にすることが怖かったのではなく、人と違うことが怖かったのだと思う。そんな私を変えたのは「アブダビ」という環境だ。

私は中学に入学すると同時に、アブダビに行った。不安で怖くて、暗く照らされない道に独りであるような気分だった。だが、そんな私を救ってくれたのは友達だった。毎日、何度も私に話しかけてくれた。この小さな親切のおかげで、暗い道から抜け出すことができた。日々、生活しているだけで視野が明るくなった。

あるとき、小さな親切の価値を感じた。日本に一時帰国したとき、4月のまだ桜の咲き始めたころのできごとだ。私は電車に乗っていた。すると、70代くらいの女性が乗ってきた。私は席に座っていたので、その女性に席をゆずろうと思った。そう思ったと同時に私は、「どうぞ。座ってください。」と言った。この言葉が私の口から出るのに、たいして時間はかからなかった。

だが、私とその言葉を発した瞬間、近くにいた人全員が私の方を見たのが分かった。そんなことは初めてで、とても怖かった。「昔の私も、こうなるのが嫌で……。」とっていると、私のゆずった席に座った女性が、優しく温かい笑顔で「ありがとうね。」と言ってくれた。

私はそのとき、席をゆずったことを少し後悔した自分が恥ずかしくなった。そして、その女性は電車から降りる際も、同じ言葉を言ってくれた。私はとても誇らしくなった。勇気を出して人に親切にできて良かった、と。その後、車窓から見えた咲き始めた桜のピンク色は、どんな色よりも美しかった。

小さな親切は、大きなお世話になるかもしれない。けれど、人に喜んでもらえたときの嬉しさは測ることができない。友達が私にしてくれた小さな親切のおかげで、私は人に小さな親切をすることができた。

親切、人と違う行動をとることに抵抗がある人は多いと思う。その行動を冷たい目で見られても、乗り越える勇気はとても大切だ。その勇気を持てたとき、人は親切という行動に一步近づけると思う。

周りが私に背を向けたとしても、まだ、なお立ち向かう勇気を持っていたい。